

## 香港のペスト(5) 北里菌とエルサン菌

薬学雑誌 1894年度(明治27年) p 840

ペスト菌は *Yersinia pestis* という。明治27年、北里柴三郎、青山胤通と同時期にサイゴンから来たパスツール研のA. イエルサンにちなむ。世界的偉業が日本人の手でなされたと朝野を挙げて沸いたのに、北里の名前でないのはなぜか？

薬誌は一切この件に触れていない。

ただ、青山救援に向かった高田耕安が7月24日に日本に送った手紙に、「パストーの門人一尺下の土中にペスト菌を発見したりと云ふ、未だ確明には非ず」とだけある。一尺下というのは、墓を暴いたのである。解剖を嫌う香港の人々のなかで青山は死体解剖に苦労したが、香港政庁、英国人医師らの協力も得られないイエルサンはもっと苦労した。それでも死体からグラム陰性桿菌を発見する。

一方、北里はイエルサンより早く病原と思われる桿菌を発見し、グラム染色の結果を示さずに速報としてランセットに投稿した。さらに菌をコッホのもとに送る。この菌はイエルサン菌と同一のようであったが、しかしその後、北里は患者からグラム陽性の球状ないし楕円形の菌を発見し、それを病原菌として追いかけてしまう。

北里菌とイエルサン菌は明らかに異なり、その点を脚気菌事件以来？対立した彼の宿敵、緒方、青山、森ら東大派が盛んに攻撃する。緒方は明治29年台湾での流行の調査で、ペスト菌はイエルサン菌と同一とした。北里は意地になったのだろうか、明治32年神戸の流行で自ら調査にあたり自分の非を認めるまで北里菌にかかわり、そのためか発見者がイエルサンになってしまう。誠に残念であった。

なお、この間のことは全く薬誌に記述がない。北里、青山、緒方、森、みな薬学会の会員あるいは薬学会員の友人たちであり、何も書けなかったのだろうか。あるいは周知のことだから書く必要もなかったのか。わずかに緒方が台湾に派遣される辞令だけ載っていた(薬誌1896年度 p 1234)。

医科大学教授医学博士 緒方正規  
ペスト病研究のため台湾へ出張を命ず  
11月21日 文部省

緒方はこのとき、ペスト菌の伝染にはネズミとそのノミが関係するという世界的発見をした。

小林 力